

モニタリング結果報告書 (2018年度)

1. 施設概要

施設名	神奈川県総合リハビリテーションセンター		
所在地	厚木市七沢516		
サイトURL	http://www.kanagawa-rehab.or.jp		
根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため(昭和48年4月)		
指定管理者名	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間	H28.4.1～R8.3.31 (2016年) (2026年)	施設所管課 (事務所)	県立病院課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>評価については、利用状況はB、利用者の満足度がS、収支状況がAであったことから、3項目評価はA評価となった。今後も引き続き再整備を踏まえた適切な人員配置、業務の効率化、利用者サービスの向上等が求められるが、再整備施設の有効活用により、更なる改善を進めていくことができるものと考えている。</p>	
<p><各項目の詳細説明></p> <p>【管理運営等の状況】 リハセンターの再整備にあたっては、福祉棟が平成28年6月に、病院本館が平成29年12月に新たな建物に移転し運営を開始しており、引き続き適切な管理運営が行われている。今後は旧本館跡地の外構工事を行い、本年7月末に再整備が完了する予定となっている。また、「さがみロボット産業特区」における実証実験機関として、引き続き県施策と連携を図っている。</p> <p>【利用状況】 福祉施設については、施設ごとにはばらつきが見られるものの、平成28年6月にオープンした福祉棟を核に利用者支援を着実に進めた。病院については、新病院棟への移転後、1年を通じて運営した初めての年であり、今後の安定した運営を進めていくにあたり、重要な年となった。再整備の途中ということもあり、判断が難しいが、実績を踏まえてB評価とした(S評価が1区分、A評価が1区分、B評価が5区分、C評価が3区分)。</p> <p>【利用者の満足度】 施設により10月～11月のいずれかで実施した。S評価が2施設3区分、A評価が2施設2区分だったため、S評価とした。</p> <p>【収支状況】 収支比率が100.9%となったため、A評価となった。</p> <p>【苦情・要望等】 概ね利用者に理解を得られるような対応がとられている。</p> <p>【事故・不祥事】 施設利用中の利用者の骨折事故等が数件発生している。</p> <p>【労働環境の確保に係る取組状況】 県による監査、労働基準監督署等からの指摘事項はない。</p>	
3項目評価	<p>S : 極めて良好 A : 良好 B : 一部改善が必要 C : 抜本的な改善が必要</p> <p>※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう</p>
A	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	随時	
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
1 重点方針 (1) 高度専門性の発揮	<p>民間の病院や福祉施設では対応が難しい重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供と、リハビリテーションに関わる研究開発や地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援などに取り組んだ。</p> <p>リハセンターがこれまで培ったノウハウを継承し質の高い医療・福祉を継続して提供していけるよう、優秀な人材の確保を進めるとともに、職員の資質の向上に取り組んだ。</p> <p>神奈川県と連携してリハビリロボットの開発や普及を図るため、病院内の「かながわりリハビリロボットクリニック」で企業や大学と連携しながらリハビリ医療へのロボット技術の導入に取り組んだ。</p>	<p>民間では対応が困難な重度・重複障害者への医療・福祉サービスの提供やリハビリテーションに関わる研究開発等に積極的に取り組んでいる。リハセンターの再整備にあたっては、福祉棟が平成28年6月に、病院本館が平成29年12月に新たな建物に移転し運営を開始しており、引き続き適切な管理運営が行われている。今後は旧本館跡地の外構工事を行い、本年7月末に再整備が完了する予定となっている。</p>
(2) 収益の確保、効率化	<p>指定管理料の枠の中で安定的に運営するために利用率の向上や、病院の2つの回復病棟の安定的な運営を図り患者単価を高めることなどにより自己収入の増を図るとともに、事業費の効率的な執行を図ることにより収入・支出の両方から財源確保に取り組んだ。</p>	

<p>(3) リハセンターの再整備への対応</p>	<p>旧病院本館の除却工事、本館と東館・体育館との連絡通路設置工事及び外構工事を行うため、バス停や駐車場が仮設となり、病院本館の臨時出入口への動線が長くなったが、警備員の配置を工夫したり、雨天時には警備員に加えて職員も加わって来訪する利用者の援助を行うなどの対応を行い、利用者の来訪時の安全確保に取り組んだ。</p>	
<p>(4) 病院・福祉施設の安全管理対策の強化</p>	<p>危機管理に対する意識を持ち、防災訓練、利用者の離院離棟対策訓練を実施した。地元警察等による防犯訓練の実施・指導、地元自治会との協力体制などにより、安全な施設運営を行った。</p>	
<p>2 事業計画 (1) 病院機能の充実 (ア) リハビリテーション機能の充実</p>	<p>脊髄障害、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患（変形性股関節症等）、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患（小児の高次脳機能障害、急性脳症後遺症等）、合併症を持つ重度身体障害者などに対するリハビリテーション医療（診断、評価、治療、看護、リハビリテーション訓練等）を提供し、入院患者数は、延91,848人（実入院患者数1,280人）で、一日平均の入院患者数は251.6人（一日平均入院率89.9%）であった。 退院患者数は、1,288人で、家庭復帰が1,134人（88.0%）と最も多く、次いで施設入所80人（6.2%）、転院71人（5.5%）、死亡3人（0.2%）となっている。 外来患者数は、延60,078人（一日平均246.2人）であった。</p>	<p>平成29年4月1日をもって七沢病院との統合が行われるとともに、平成29年8月には新病院棟が竣工し、同年12月に運営が開始されている。新病院棟への移転後、1年を通じて運営した初めての年であり、利用率の向上を図るなど、今後の安定した運営を進めていくにあたり、重要な年となった。</p>

(イ) 地域との連携強化	近隣医療機関等との連携により、患者の紹介・逆紹介の件数は平成30年度の目標数値を上回った。	
(ウ) 患者の視点に立った病院経営	患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図るとともに、医療総合相談室において利用者からの要望・苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施し、目標値を達成することができた。	
(エ) 効率的・効果的な業務運営	リハビリ訓練の時間割を変更することで効率の良い訓練計画を立てることができるようになり、訓練収入が増加した。 入院審査の迅速化を実施し、待機患者の期間短縮に取り組み、患者確保を強化した。 院内処方を希望する外来患者が増加し当該患者が先発薬での処方を希望することが多かった影響により、後発薬品の採用率は目標55%に対して51.4%とわずかに届いていない。	

<p>(2) 福祉機能の充実</p> <p>ア 七沢学園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害やADHD（注意欠陥多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。平成30年度の利用者数は、入所が11人、退所が12人、一日平均入所者数は27.5人で、一日平均入所率は91.7%であった。</p> <p>また、虐待等の措置入所のほか、短期間（1ヵ月～6ヵ月）の施設入所を通して、ADL（日常生活動作）の評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用して「集中療育」を実施しており、平成30年度は入所定員30名のうち2名枠を設けて、利用者実人数は6名であった。</p> <p>障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が4人、退所が4人、一日平均入所者数は28.9人で、一日平均入所率は96.3%であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練も行っており、一日平均利用者数は20.0人、一日平均利用率は105.5%であった。</p> <p>自立訓練（生活訓練）においては、利用者各々に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は14.7人、一日平均利用率は86.5%であった。</p>	<p>平成28年6月にオープンとなった福祉棟を核に、利用者支援を着実に進めた。</p>
---	---	---

<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ1,043人、知的障害児通所機関巡回指導を65回実施した。児童施設・成人施設ともに実施している短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行った。児童利用者実人数276人、延べ人数704人、成人利用者実人数333人、延べ人数1,078人の合計延べ人数1,782人を受け入れた。その他、児童福祉法第33条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数15人、延べ人数199人であった。なお、地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活介護の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供した。実人数28人、延べ人数503人を受け入れた。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査の結果は目標値を達成している。</p>	

<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>児童部門において目標達成できていない項目が多かった。</p> <p>家庭復帰率 利用者の特性に配慮して高校卒業後の地域移行支援を行った結果、家庭復帰としてカウントされない障害者支援施設への移行の比率が例年より高く目標を達成できなかった。</p> <p>強度行動障害児受入人数 児童東ユニット（中高生対象）に行動障害を受け入れる個室があるものの、当該ユニットにおいて現在軽度発達障害児の比率が極めて高く、強度行動障害児を受け入れた場合の安全を考慮して受け入れを控える必要があったため、目標を達成できなかった。</p> <p>一日平均利用者数・集中療育職員の人事異動による環境変化への配慮で入所時期を調整したことや、集中療育の受け入れで退所した後すぐに次の利用者の入所ができないことがあり、目標をわずかに達成できなかった。</p> <p>利用率 目標98%が極めて高い数値であった。すでに入所している小規模ユニットの利用者の特性を配慮し受け入れを実施したが目標には届いていない。長期利用者枠の空床活用を行い短期入所者を受け入れた。</p> <p>成人部門においては、家庭復帰率、医療重度障害者の受入、一日平均利用者数、利用率において目標を達成することができた。特に家庭復帰率は生活訓練事業において地域移行を着実に支援することができたことが大きな要因と考えられる。</p>	
------------------------------	--	--

<p>イ 七沢療育園</p> <p>(ア) 施設機能の充実</p>	<p>重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に治療や健康管理などの医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者にショートステイサービスを提供した。</p> <p>主治医である小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師と共に日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。今年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は42人であった。</p>	<p>重度の長期入所者に加え、中短期入所により、在宅重症心身障害児（者）の支援を積極的に行った。</p>
<p>(イ) 地域への支援と連携強化</p>	<p>「在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業」は延べ12人に対し12回実施した。</p> <p>また短期入所事業では、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的などで実人数59人（延べ人数168人）に対し延べ1,106日の短期入所を提供した。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p> <p>満足度調査は、平成30年度の目標を達成した。</p>	

<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営</p>	<p>平成30年度の入所事業は107人を受入れ、110人が退所した。また、一日平均入所者数は35.8人で、一日平均入所率は91.8%で目標に届かなかった。</p> <p>一日平均利用者数の低下は、障害児福祉手当及び特別児童扶養手当の資格喪失要件の見直しに伴い、中期入所利用から短期入所への変更が継続していることから、ベッド調整において空床が生じやすくなっていること、1月上旬に園内でインフルエンザが集団発生し、約1ヶ月間の園閉鎖を行い、その間は中短期入所を停止したため、中期利用者8名（利用日数74日）、短期12名（利用日数66日）がキャンセルとなったことが要因である。空床を有効活用して短期利用者の受入を積極的に行い、短期利用者の平成29年度の延利用日数は1,093日、平成30年度の延利用日数は1,106日と増加している。</p>	
<p>ウ 七沢自立支援ホーム (ア) 施設機能の充実</p>	<p>七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。</p> <p>肢体不自由者については、神奈川リハビリテーション病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。</p> <p>退所後の家庭復帰・就学・就労の実績は平成30年度の目標を達成できた。</p>	<p>神奈川リハ病院と連携し、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、リハセンターの特色である医療と福祉の連携に寄与した。</p>

<p>(イ) 地域との連携強化</p>	<p>地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数69人、延べ501人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、平成30年度は延べ利用者数13人に提供した。</p> <p>また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数81人、延べ430人の受入れを行った。</p> <p>その他に受託評価事業では、肢体不自由児(者)を対象とし、支援学校(支援学級)在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハビリテーション病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、平成30年度の利用者数は実人数13人、延べ65人であった。</p> <p>また、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児(者)を対象に神奈川リハビリテーション病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数2人、延べ10人であった。</p>	
<p>(ウ) 利用者の視点に立った施設運営</p>	<p>利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員により、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。</p>	

<p>(エ) 効率的・効果的な業務運営と経営改善</p>	<p>平成30年度の施設入所支援の利用者数は、入所が35人、退所が36人、一日平均入所者数36.7人で、一日平均入所率は91.8%であった。また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が36.8人、一日平均利用率は87.6%であった。</p> <p>一方、中途視覚障害者に対しては平成30年度の施設入所支援の利用者数は、入所が10人、退所が9人、一日平均入所者数5.8人で、一日平均入所率は58.2%であった。また日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が7.3人、一日平均利用率は40.6%であった。</p> <p>平成29年度は神奈川リハビリテーション病院からの利用が過半数だったが30年度は32.1%に減った一方で、地域の回復期病院や老人保健施設等を定期的に訪問したことから、老人保健施設や在宅からの利用率が増加した。</p> <p>また前年度から増えた養護学校高等部卒業生は、養護学校向けの説明会や受託評価の効果で今年度も複数名が利用している。</p>	
<p>(3) 調査、研究・開発事業</p>	<p>高齢者・障害者等への総合リハビリテーションサービスの向上と自立促進を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発、情報提供サービス事業を行った。</p> <p>リハビリテーションに関する調査、研究・開発については、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立、 2) 障害発生除去、修復メカニズムの解明、 3) 障害者の自立促進のための研究 <p>の3つの基本理念をもとに、医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行ない医療・福祉の向上に向け取り組んだ。</p>	<p>前年度と同様に関係機関と連携した臨床的・実証的な調査・研究等を継続して実施した。また「かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）」において、筋電義手をはじめ、リハビリロボットに関する専門的な相談に対応するなど、障害者のADLやQOLの向上に寄与した。</p>

研究は、
1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究、
2) 障害児者に関する計測的・工学的研究、
3) 障害児者の生活の質に関する研究

の3分野を重点に調査、研究・開発を行った。

研究の主な対象は、神奈川県リハ病院では、

①骨関節疾患（変形性股関節疾患）、
②脊髄損傷及び脊髄疾患、
③神経難病（小児てんかんや知的発達障害も含む）、
④高次脳機能障害では、主に脳血管障害（脳出血、脳軟化、くも膜下出血など）であった。

福祉部門では、

①強度行動障害児者、
②ロービジョン障害者となっている。

開発は、チェアスキー（ソチモデル市販モデル）を製作した。

情報サービス事業では、図書、文献、資料等の収集・提供、医学・研究等のフォトサービス、研究会や講演会における機材の貸し出し、また医療・福祉情報の集積や調査を行った。図書関係については、高度専門性を維持・発展させるため、常に最新の情報や知識の提供ができるように雑誌84種を購入し図書室専門書の充実を図った。

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会を開催した。（一般演題18題、ポスター発表6題）研究成果を情報発信するとともに、関連の専門分野学会等において発表を行い、あわせて、「神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要第42号」を作成した。

<p>(4) 地域へのリハビリテーション支援事業</p>	<p>地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための業務を全県的な立場で行った。</p> <p>地域支援室では、リハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動、県委託事業である神奈川県リハビリテーション支援センター事業を行った。県委託事業に関してはリハビリテーション情報の提供、人材育成、関係機関の連携を推進する業務を行った。</p> <p>また、高次脳機能障害支援室では「高次脳機能障害支援普及事業(国事業)」の神奈川県内の支援拠点機関として支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行った。</p> <p>リハビリテーション専門研修は、医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、二つの県委託事業を除き平成30年度は18コースの研修を実施し、23回開催した。受講者延数は、外部受講者756名、事業団職員66名で総受講者延数は822名であった。</p> <p>地域リハビリテーション支援関連活動として次の活動を行った。</p> <p>ア「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」政令市のリハセンターとの連絡会(3回)</p> <p>イ地域医療介護連携会議等への参加</p> <p>1) 「厚愛地区医療介護連携会議」への出席(6回)</p> <p>2) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」、「横須賀地域小児在宅医療連絡会」への出席(2回)</p> <p>3) 「自立支援協議会」(県、保健福祉圏域、市町村)(9回)</p> <p>ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力(8回)</p>	<p>前年度と同様に、地域リハビリテーションシステムの構築のための取組みを継続して実施した。また、引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証実験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。</p>
------------------------------	---	--

神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）として次の活動を行った。

ア リハビリテーションの相談対応（295件）、情報提供（ホームページへのアクセス総数は30,573件フェイスブックへのアクセス総数15,384件）、かながわりハビリテーション・ケアフォーラムの開催（平成31年2月2日（土）「被災地から学ぶ、災害後の地域生活」）

イ リハビリテーション従事者、利用者やその家族を対象とした研修（2回）

高次脳機能障害支援普及事業として次の活動を行った。

ア 相談支援

- 1) 個別支援（187件）
- 2) 巡回相談事業（6種）

イ 普及・啓発

- 1) 研修会の開催（1回）
- 2) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会（1回）

ウ 研修関係事業

- 1) 研修会の開催（3回）
- 2) 県内研修会への講師派遣（7回）
- 3) 事例検討会（6回）
- 4) ネットワーク育成事業：高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会（2回）

エ 国との連携：全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議（2回）

オ その他の関連事業

- 1) 連携構築
 - ①政令指定都市との連携（2回）
 - ②自立支援協議会との連携（18回）
 - ③ 当事者団体との連携（センター内に協働事業室を設置）

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

5. 利用状況

(1) 七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	9,924	10,299	10,044
対前年度比		103.8%	97.5%
目標値	10,731	10,731	10,731
目標達成率	92.5%	96.0%	93.6%

目標値の設定根拠： 1日あたり29.4人（利用率98%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(2) 七沢学園（児童・地域支援（短期入所、家族短期、家族一日））

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	623	785	704
対前年度比		126.0%	89.7%
目標値	720	720	720
目標達成率	86.5%	109.0%	97.8%

目標値の設定根拠： 短期入所を延べ720人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(3) 七沢学園 (成人・入所)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
A	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	10,787	10,602	10,546
対前年度比		98.3%	99.5%
目標値	10,194	10,194	10,194
目標達成率	105.8%	104.0%	103.5%

目標値の設定根拠： 1日あたり27.9人（利用率93.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(4) 七沢学園 (成人・地域支援 (短期入所))

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	1,380	948	1,078
対前年度比		68.7%	113.7%
目標値	935	1,380	1,380
目標達成率	147.6%	68.7%	78.1%

目標値の設定根拠： 短期入所を延べ1,380人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(5) 七沢療育園（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	13,240	13,059	13,064
対前年度比		98.6%	100.0%
目標値	13,807	13,807	13,807
目標達成率	95.9%	94.6%	94.6%

目標値の設定根拠： 1日あたり37.8人（利用率97%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(6) 七沢療育園（地域支援（短期入所、重心親子教室、療育訪問指導））

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
S	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	877	1,093	1,106
対前年度比		124.6%	101.2%
目標値	700	700	700
目標達成率	125.3%	156.1%	158.0%

目標値の設定根拠： 短期入所を延べ700人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(7) 七沢自立支援ホーム（入所）

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	16,331	15,871	15,526
対前年度比		97.2%	97.8%
目標値	17,173	17,173	17,173
目標達成率	95.1%	92.4%	90.4%

目標値の設定根拠： 1日あたり47.0人（利用率94.1%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(8) 七沢自立支援ホーム（地域支援（短期入所、通所、受託評価））

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	589	456	495
対前年度比		77.4%	108.6%
目標値	1,372	1,372	1,372
目標達成率	42.9%	33.2%	36.1%

目標値の設定根拠： 短期入所を延べ1,372人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(9) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	82,633	92,726	91,848
対前年度比		112.2%	99.1%
目標値	91,980	91,980	91,980
目標達成率	89.8%	100.8%	99.9%

目標値の設定根拠： 1日あたり252人（利用率90%）とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

(10) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
C	

	前々年度	前年度	2018年度
利用者数※	65,965	61,898	60,076
対前年度比		93.8%	97.1%
目標値	87,900	87,900	73,200
目標達成率	75.0%	70.4%	82.1%

目標値の設定根拠： 1日あたり300人とした

利用者数の算出方法（対象）： 年間延べ利用者数を集計した

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

6. 利用者の満足度

(1) 七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成30年11月13日～平成30年11月30日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 安心した生活、プライバシーの保護、相談事への対応、施設の印象等

実施した調査の配布方法 聞き取り 回収数/配布数 42 / 59 = 71.2%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	28	7	4	3	42	
回答率	66.7%	16.7%	9.5%	7.1%		
前年度の回答数	15	18	4	3	40	
前年度回答率	37.5%	45.0%	10.0%	7.5%		
回答率の対前年度比	177.8%	37.0%	95.2%	95.2%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(2) 七沢療育園

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成30年10月1日～平成30年10月31日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、行事・活動・食事、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 郵送 回収数／配布数 27 / 33 = 81.8%

配布(サンプル)対象 長期利用者の家族（保護者等）

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	22	4	1	0	27	居住空間の換気が不十分で匂いが気になる。
回答率	81.5%	14.8%	3.7%	0.0%		
前年度の回答数	18	8	0	0	26	
前年度回答率	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%		
回答率の対前年度比	117.7%	48.1%				

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(3) 七沢自立支援ホーム

評価	≪評価の目安≫ 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上～90%未満 B:50%以上～70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
A	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間：平成30年11月19日～平成30年11月30日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 施設のルール、集団生活、行事、施設設備、職員の対応状況 等

実施した調査の配布方法 個別配布、聞き取り 回収数/配布数 43 / 43 = 100.0%

配布(サンプル)対象 利用者本人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	18	15	8	2	43	建物内設備の案内を充実してほしい
回答率	41.9%	34.9%	18.6%	4.7%		
前年度の回答数	21	13	6	2	42	
前年度回答率	50.0%	31.0%	14.3%	4.8%		
回答率の対前年度比	83.7%	112.7%	130.2%	97.7%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(4) 神奈川リハビリテーション病院 (入院)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:平成30年11月13日~平成30年11月30日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 病院全般の満足度、施設職員の対応 等

実施した調査の配布方法 病棟で配布 回収数/配布数 178 / 229 = 77.7%

配布(サンプル)対象 入院患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	111	40	8	2	161	工事期間中なので仕方ないが移動経路などがわかりづらく不便
回答率	68.9%	24.8%	5.0%	1.2%		
前年度の回答数	56	58	12	3	129	
前年度回答率	43.4%	45.0%	9.3%	2.3%		
回答率の対前年度比	158.8%	55.3%	53.4%	53.4%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

(5) 神奈川リハビリテーション病院 (外来)

評価	<<評価の目安>> 「満足」(上位二段階の評価)と答えた割合が、S:90%以上 A:70%以上~90%未満 B:50%以上~70%未満 C:50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施	実施期間:平成30年11月13日~平成30年11月30日

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 病院全般の満足度、施設職員の対応 等

実施した調査の配布方法 外来窓口で配布 回収数/配布数 300 / 419 = 71.6%

配布(サンプル)対象 外来患者

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	161	114	20	5	300	工事期間中なので仕方ないが駐車場が不便
回答率	53.7%	38.0%	6.7%	1.7%		
前年度の回答数	211	80	6	1	298	
前年度回答率	70.8%	26.8%	2.0%	0.3%		
回答率の対前年度比	75.8%	141.6%	331.1%	496.7%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	≪評価の目安≫ 収支差額の当初予算額：0円の施設が該当 収入合計／支出合計の比率が S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超える マイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	3,755,427	5,434,204	42,949	備考のとおり	9,232,580	9,232,580	0	
	決算	3,744,907	4,880,106	72,307	備考のとおり	8,697,320	8,550,988	146,332	101.71%
前年度	当初予算	3,228,752	4,462,970	38,679	備考のとおり	7,730,401	7,730,401	0	
	決算	3,202,320	4,315,177	42,476	備考のとおり	7,559,973	7,509,656	50,317	100.67%
2018年度	当初予算	2,962,777	4,397,378	34,608	備考のとおり	7,394,763	7,394,763	0	
	決算	2,952,367	4,534,527	38,547	備考のとおり	7,525,441	7,458,403	67,038	100.90%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

2018年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

前々年度／受取利息配当金収入：(当初) 6,794 (決算) 6,255 その他の収入：(当初) 23,049 (決算) 51,836 その他の事業収入(当初) 0 (決算) 1,062 長期貸付金回収収入：(当初) 3,832 (決算) 3,952
 こども園使用料・給食費収入：(当初) 9,274 (決算) 9,202

前年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,961 (決算) 4,945 その他の収入：(当初) 15,522 (決算) 23,760 長期貸付金回収収入：(当初) 6,249 (決算) 3,676 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 11,947 (決算) 10,095

2018年度／受取利息配当金収入：(当初) 4,848 (決算) 4,114 その他の収入：(当初) 15,040 (決算) 18,118 長期貸付金回収収入：(当初) 3,641 (決算) 5,651 こども園使用料・給食費・補助金収入：(当初) 11,079 (決算) 10,663

8. 苦情・要望等 □ 該当なし

(1) 七沢学園（児童・成人）

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	1 件	洗濯機の故障対応	購入依頼を実施し、6月に設置完了。
	相談	件		
職員対応	苦情	件		
	相談	件		
事業内容	苦情	件	余暇支援の支援内容に関する要望	可能な範囲で実施。
	相談	19 件		
その他	苦情	件	退所後の不安	必要に応じ相談対応を継続。
	相談	16 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2) 七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	1 件	床に虫の死骸や食べ物の残りかすが落ちていた。 換気が不十分で匂いが気になる。 空調管理に関する相談	清掃回数を増やした。 施設管理部門へ情報提供し、空調に関して改善を依頼した。
	相談	1 件		
職員対応	苦情	3 件	利用者の飲み物の予備がなくなっていた 警備員の接遇に対する苦情 利用者の歯ブラシの保管状況が適切ではなかった	謝罪すると共に職員間での情報の共有、警備委託会社への情報提供を行った。
	相談	件		
事業内容	苦情	件	過去（平成27年）のショートステイ利用時の支援内容について相談・確認	利用当時の記録を確認し、当時の記録内容を説明。
	相談	3 件		
その他	苦情	件		
	相談	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3) 七沢自立支援ホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	1 件	利用者共用の冷蔵庫の利用方法について	庫内整理について説明し、利用状況の改善に努める。
	相談	16 件		
職員対応	苦情	1 件	入浴時の職員対応について	情報を共有し、接遇向上に努める。
	相談	件		
事業内容	苦情	件	食事内容について	栄養科職員より説明
	相談	15 件		
その他	苦情	件	地域における社会資源の利用について	相談内容に関する情報を提供した。
	相談	11 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4) 神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	苦情	17 件	食堂がなくなってしまい不便。	食堂を運営できる業者への打診を行い確保に努める。
	要望	39 件		
	相談	件		
職員対応	苦情	30 件	駐車場の案内で、案内する職員によって内容が異なるときがある。	警備委託会社へ相談の内容を伝達し改善に向けて検討するように申し入れする。
	要望	1 件		
	感謝	7 件		
	相談	件		
事業内容	苦情	15 件	外来リハ訓練の予約がとりづらくなった。	外来リハ訓練を利用する方が増えた影響による。段階的に入院訓練枠と外来訓練枠の見直しを行い、外来の比率を増やせるようにした。
	要望	13 件		
	相談	件		
その他	苦情	件		
	要望	2 件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 □ 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
4月24日	① 日中プログラムの一環としてサッカーを実施。キーパー役としてシュートしたボールを手で受けた際に右手第1指爪の先から出血。その後、受診した結果、右手第1指末節内骨折と診断された。 ② 5月2日文書報告 ③ サッカーのような運動プログラムは人気が高いが、安全面の配慮が必要であることを再確認し、準備運動の徹底など予防策を講じる。 ④ 措置児童で家族関係が複雑であることから児童相談所担当ワーカーと検討。4月25日生活担当よりご家族に連絡。 ⑤ 患者の費用負担はない。 ⑥ なし

8月27日	<p>① 他利用者と喧嘩。相手から殴りかかられた際、左手で受けて負傷した。その後、受診した結果、左手第5中手骨折と診断された。なお、喧嘩した相手は右手拳に青痣ができた程度であった。</p> <p>② 8月31日文書報告</p> <p>③ 日々の生活状況について職員間で観察を強化し、また心理士の助言を受けながら、安定した生活が送れるように支援を継続する。</p> <p>④ ご家族への電話連絡がつかず、留守番電話にて状況を伝えたと、8月29日にご家族より電話があり、状況説明と謝罪をした。ご家族からは「お互いにやりあったのではない。学園の職員を責めることはしない。」とのコメントをいただく。</p> <p>⑤ 患者の費用負担はない。</p> <p>⑥ なし</p>
9月18日	<p>① 他利用者に嫌なことを言われて立腹し、自分で居室ドアを叩く。その後、左手が腫れた。受診した結果、左手第二指骨折と診断された。</p> <p>② 9月28日文書報告</p> <p>③ 他利用者との関係悪化にイライラすることが多く、留意しながら対応していた。また、怒っている声とともに机を叩いている音が居室内から聞こえることがあり、その都度助言を行っていた。治療優先とともに他利用者との関係調整のため、個別訓練の導入などを実施する。</p> <p>④ 9月19日ご家族へ電話連絡</p> <p>⑤ 患者の費用負担はない。</p> <p>⑥ なし</p>
12月4日	<p>① 6時30分に夜勤の生活支援員が居室にて定時薬を経管で投与した。7時に声をかけた際、反応がないため、看護師へ連絡した。看護師が来室し、状況確認後、神奈川県リハビリ病院へ搬送した。内科医師が診察し経過観察のために5 A病棟に入院した。翌日12時30分家族が来園。5 A病棟にて内科医師より説明を受け、「普段内服していない薬の誤薬が昏睡状態の理由である」との説明があった。</p> <p>② 12月17日文書報告</p> <p>③ 12月4日に入院後、同日夕方には意識が回復したが、様子観察のため、12月7日まで入院。誤薬防止に向けて、看護師とともに作成した「服薬管理マニュアル」が整備されていることから、再度マニュアル通りを行うことを全職員に徹底した。</p> <p>④ 12月4日9時に職員からご家族へ電話連絡を行ったが、留守番電話であった。後見人へ電話連絡を行い状況を報告した。12月6日、内科医師の説明後、ご家族へ謝罪し、責任を持って対応したい旨伝え、ご家族は了解された。</p> <p>⑤ 患者の費用負担はない。</p> <p>⑥ なし</p>

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。